

第1回 流行性角結膜炎について

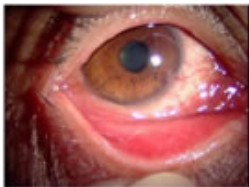
今回は夏の時期に発症が多くなる、流行性角結膜炎についてのお話です。

流行性角結膜炎とは

主にアデノウイルスによって起こる急性結膜炎のことで、別名「はやり目」とも言われ、非常に感染力が強い病気です。特に結膜炎が始まって最初の数日間は、もっとも他の人に感染させてしまう可能性が高い時期であり、手指やタオル・衣類などを介して感染を起こします。発症は夏が多いですが、どの季節でも起こります。

症状

自覚的には流涙、結膜の充血、めやに、眼痛などを示します。潜伏期は1～2週間で、軽い風邪症状があるが、全身症状は少なく、めやにには漿液性です。



治療法

アデノウイルスに対する特異的な抗微生物薬はなく、重複感染予防の目的で抗菌点眼薬を用い、点状上皮下混濁に対して副腎皮質ステロイド薬の点眼を行うのが一般的です。ただしあくまでも対処療法であり、これらの点眼を続けても、約1～2週間は症状が続くことがあります。現在では迅速診断法として、簡易キットを用いた早期段階での発見ができるようになってきました。当院でも簡易キットを用いた診断を行っておりますので、上記に似た症状があれば自己判断は避け、お早めに当院もしくは最寄りの眼科医院を受診ください。

注意点

- ・石鹸や流水でよく手を洗い、手で目をこすったりしないよう注意する。
- ・お風呂は最後に入り、そのお湯はすぐに捨てる。
- ・タオルや枕の共有はやめる。
- ・休養をしっかりとって体力を落とさない。

等が注意点として挙げられます。

